

畑わさびの新害虫ミドリサルゾウムシの生態と防除対策

岩泉町において、ミドリサルゾウムシ *Ceuthorrhynchus diffusus* Hustache が畑わさび栽培圃場で多発し、畑わさびを食害する害虫として初めて確認された。本種は成虫で越冬し、年1化の発生である。成虫は、融雪間もなく活動を始め、畑わさびの花茎や葉柄の内部に産卵する。幼虫は5月中旬には見られ、6月上旬には老齢幼虫が葉柄を脱出して土中に潜る。



図1 被害を受けた畑わさび株
葉柄が黒変して生育不良。



図2 葉柄内部に食入する幼虫



図3 ミドリサルゾウムシの成虫(体長2.0~2.2mm)

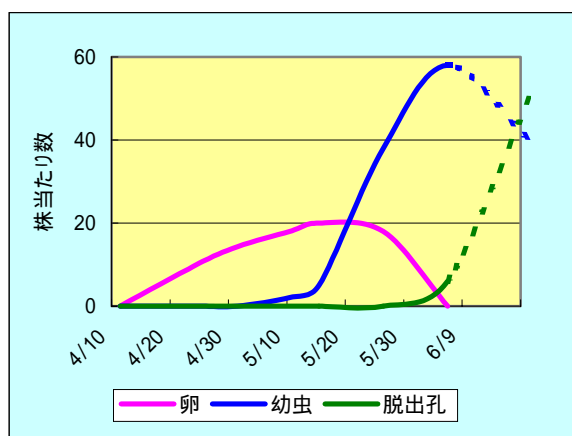


図4 ミドリサルゾウムシの各態の発消長
(H12 岩泉町門地区、株の分解調査による)
卵は4月下旬から確認され、5月上~中旬に産卵盛期となる。幼虫は5月下旬から出現し、6月上旬には老齢幼虫による脱出孔が見られた。

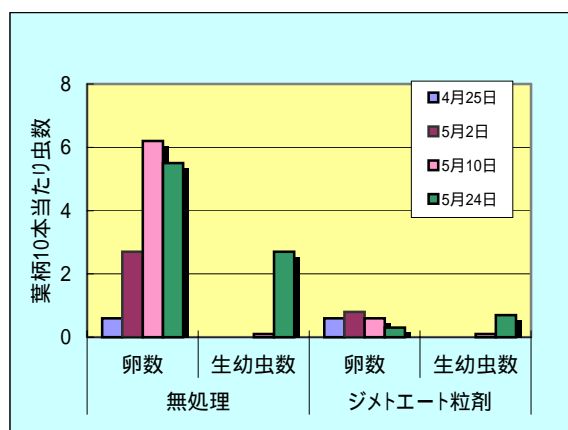


図5 ジメトエート粒剤による防除効果
(H13 岩泉町門地区、株の分解調査による)

4.25 ジメトエート粒剤 6kg/10a 処理
産卵開始期にあたる4月下旬~5月上旬に、ワサビクダアザミウマ防除剤であるジメトエート粒剤 6kg/10a を全面散布すると、産卵数、幼虫数が無処理区より少なく抑えられた。